

第33回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

< テーマ型 尼崎の教育に期待すること > 概要版

と き	令和元年 10月 23日 (水) 午後 2時～3時 30分
と ころ	尼崎市開明庁舎 1階西会議室 (開明町 2丁目 1-1)
出 席 者	参加者 23人、市長ほか関係者 13人 計 36人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長のあいさつ

本日は教育がテーマなので、松本教育長にも来ていただいている。いつもと違い、教育長を交えての意見交換となるので、尼崎の教育の今後につながる話ができればと思う。

3 教育長の説明

<資料「教育について考えよう」に基づき説明>

- ・昨年4月から教育長に就任している。教育長は、議会の議決を経て任命される。
- ・教育と一言で言っても様々なものがあるが、今日は学校教育について主にお話する。
- ・学校教育というのは、明治時代から始まっているが、時代の流れの中で意義付けが変わってきている。戦後は「学校へ行かせてもらう」のが有難い時代であり、学校給食もバランスの取れた栄養補給のために始まった。しかし現代の学校は「行かなければならない」場所になっており、何故行かなければならないかを問う時代である。そのような中で給食は、子育て支援の観点から重視されるようになってきている。
- ・教育委員会としては、①格差を作らない（基礎・基本を身に付ける。）②一人ひとりが社会で生きていけるよう、集団生活ができる人間関係を学ぶ（距離感・ルール）③安全な教育環境を提供する、の3つを重視している。
- ・学校では多くの時間を授業が占めることから、授業を魅力的にするために授業スタイルの改革を行っている。
- ・統一的な方針を示し、基礎知識・基礎学力の底上げに向けた取り組みを行っている。
- ・あまっ子ステップアップ調査において、どこで躓き、何がわからないのかといった一人ひとりの状況を把握し、それをフィードバックすることで、学習指導の充実と改善につなげている。
- ・学校へ行けない子供が増えて不登校が大きな問題となっている。まずは家から一歩外に出るための学校以外の居場所づくりをするとともに、不登校の子供を持つ親同士が繋がれる集いを開催し交流支援を図っていく。
- ・最近の中学生の多くはスマホを持っており、LINE等SNSでのやり取りで誤解が生じ、いじめや精神的に追い詰められる子供が増加している。スマホで相談できるアプリを作成して相談体制を整えるとともに、「脱傍観者授業」を実施していじめ防止対策に取り組んでいる。
- ・教師の人手不足については、スクール・サポート・スタッフ制度の導入により改善を図っている。
- ・学校の施設整備としては、耐震化とエアコンの設置は100%完了しており、トイレの洋式化は順次実施中である。中学校給食は、2022年1月から実施予定で進めている。
- ・その他の主な課題としては、体力向上、学校と地域の連携、体罰防止、高等学校の特色化、公立幼稚園の魅力化、特別支援教育の充実、教育費負担軽減などがある。
- ・尼崎市教育振興基本計画の策定に向けて作業を進めている。

3 市民と市長・教育長との対話

(表示方法 ・ 市民の意見 → (市) 市長、(教) 教育長の答え)

・授業スタイルの改革の中で学力底上げのための勉強をしているというが、私の子供が通う学校では放課後残っているところを見たことがない。友人の子供が通う学校では、勉強面だけでなく安全面（集団登校など）でも一生懸命やっていると聞くので、学校によって差があるのではないかと感じる。また、格差を作らない取組をしているというがグレーゾーンの子供に対してどのような取組をしているのか教えてほしい。

→(教) 学力や安全面の取組において学校による差があってはいけないと思っている。大きな考え方、方針を示し、最低限度の基準を決めている。

→(市) 現在、学校評価についてのアンケートを実施中であり、その結果で学校間の差が見えてくると思うので、ぜひ、アンケートの自由記載欄に意見を書いてほしい。

→(教) グレーゾーンの子供を持つ親にとってはどこの学校に行かせるかが悩みだと思う。尼崎ではインクルーシブ教育を推奨しており、親の希望と先生の意見を踏まえて特別支援学級か普通学級かを決定しているので、勝手に決めているわけではない。グレーゾーンの子供が小学校で一緒に学べるよう支援員を確保してサポートしていきたいと考えている。

・インクルーシブ教育のことだが、先生方のレベルが低い。問題行動が起きたときの対処方法を知らない先生が多いので、色々な症例の書いてある本を配布するなどの対応をしてほしい。また、過敏性については乳幼児健診のテスト項目に入れてほしい。

→(教) 本市には多くの先生が在籍しており、教え方に差があるのが実態だろう。先生方が勉強できる環境を準備し、勉強しなければならないと思ってもらえるようにしたい。インクルーシブ教育については、特別支援学級の教育を充実している。様々な子供がいる中で、支援をどのように行っていくかが課題である。専門家の先生の意見も聞きながら進めており、特別支援教育の在り方についてもその中で議論していく。

→(市) 過敏性についての健診での対応は詳しくわからないので、何が課題か宿題とさせていただく。

・発達障害児を持つ親だが、保育園や養護の先生が小学校の先生とつながっておらず、情報を持っていないように感じる。就学前健診時に支援学級と交流ができるということを先生ではなくママ友から聞いた。もっと早く教えてほしい。

→(市) 10月1日に子どもの育ち支援センターができた。就学前後を繋ぐ為には、どのタイミングでどうするのがよいか整理をしていきたい。

→(教) 専門家が集まり一人ひとりの情報を共有し議論して親に返すことがあるが、情報伝達の流れがわかると親も安心できると思う。情報が共有されていないことについては、福祉・保健・教育がいかに連携しなければならないかしっかりと受け止めたい。

・就学前面談は個人面談であって集団面談ではない。集団の中での状況を見ないとわからない部分もある。

→(市) 面談のやり方や実施時期は検討する必要があるが、保育園に見に行ってもらうのも良いかもしれない。

・資料の中に身体障害者のテーマが載っていない。教育の定義は何か。中学2年生の自殺の件では結果が出たのにまだ裁判をやっているのはなぜか。市長のコメントに対する教育長の考えはどうか。

→(教) 身体障害者への対応については、特別支援教育の充実の中に含んでいる。教育には、家庭教育や社会教育も含まれ幅広いが、今回は学校教育に焦点を当てている。中学2年生の自殺については、原因究明を第三者委員会で行い一定の結論は出ている。裁判については行政に対する損害賠償請求であり、全く別ものである。市長のコメントについては、市長と同意見である。

・高校生の通学時において、自転車事故の加害者や被害者にならないための教育を実施してほしい。また、不登校になるのは、小学3年生から中学生ぐらいが多いと聞くので、それまでに何かできないか考えている。幼稚園・保育園の時に先生が少しおかしいなと感じたらすぐに病院へ連れて行き、問題ないと言われても1、2年かけてその子の様子や成長過程を見てほしい。また、幼稚園・保育園からの情報を先入観を持ちたくないということで聞かない先生もいるが、きちんと聞いてもらいたい。

→（教）特別支援教育の在り方を検討する中で、幼稚園・保育園と小学校との連携は気になっている事の一つである。幼稚園・保育園から小学校へあがるときの対応は、先生により様々で幼稚園等を訪問する先生もいれば、先入観を持ちたくないからと情報を聞かない先生もいる。しっかりと正しい情報を取り、対応することが大事だと思っている。

琴ノ浦高校（定時制高校）には、中学校で不登校になったが勉強したいという思いで定時制に通い、頑張って卒業する子供もいる。そもそも何故不登校になったのか、先生の中には集団をまとめないといけないという思いが強すぎて個々を尊重する大切さを持っていないことがあるので、そういったことを議論できる場を設けていきたいと思う。

・入学前に「少しおかしいかな」と言われて医者へ行ったら発達障害かもしれないと言われた。

小学校に入り、授業についていけなかった時に、先生に発達障害の疑いのあることを相談し、病院でも発達障害であるとの診断書をもらったと伝えたが、先生はそんなことはないという。どの情報が正しいかわからない状況である。

→（市）子どもの育ち支援センター「いくしあ」では、健診時の情報など、組織が異なると共有できていなかったことを、一元化して管理できる仕組みを作ったので、少しずつ改善していきたい。ただし、障害の有無にかかわらず、みんなでこうしていこうという社会にしていかななくては、いつまでもグレーゾーンの解決にはならないと思っている。

→（教）特別支援学級では個別指導シートを作るが、グレーゾーンの子供は、障害があると認定できないので、個別シートはない。

・めぐみの園幼児園は、市内で唯一認可されていない、全園児20人ぐらいの小さな園で、普通の幼稚園には通えない子も通っている。3歳児から通うので、障害を個性と捉え、みんな自然にふるまっているのに、小学校に行った途端、障害者という目で見られる。クラスにこんな子がいるのはなぜだろうと考えてほしい。

・今の教育現場は明るくないと聞く。どうすれば明るくなるのか、みんなで情報共有し共通意識をもてばよいと思う。また、なぜ学校の中に支援学級が増えたのか、通級学級があるのを知らない先生もいるので認知してもらいたい。

・教育予算が削られているが、他を削ってでも充実させないといけないのではないかと。また、学校の先生が急激に若返っているのでは、児童一人ひとりのことを把握できていないのではないかと。20代30代の先生がしっかり担任できるよう本格的な研修をしてほしい。また、不登校の子の就職率が悪いと聞くがどうなのか。麴町中学校の取組を参考にして、中学生が率先して学ぶ力を身につける取組をしてはどうか。

→（教）市の教育予算のほとんどがハード面であり、人件費は県の予算であるため、予算が減額されたからと言って教育面の取組を減らしているわけではない。学校には様々な先生がいるので、学校長をはじめ学校全体で、また教育委員会全体でフォローする体制をとっていくことを考えている。

→（市）本市で実施しているステップアップ事業は、全学年でテストを実施し、一人ひとりがどこで躓いたか確認することに主眼を置いている。自分自身が以前より伸びているかどうかを確認することが学び続ける力の源であると考えている。

・めぐみの園幼稚園は40年間園長先生が変わらず保育をしてきている。少人数の小さな園だが、今回の無償化の対象から外れているので、入園希望者が減り廃園の危機となっている。グレーゾーンの子供を持つ親は、この幼稚園なら目が行き届くということで見学に来てくれたりするが、無償化対象外とわかると断念する人がいる。国だけでなく県も市も補助金を出していると思うので、この幼稚園のことを少しでも考えてもらえればと思う。

→(市) 無償化の対象となるためには認可される必要があり、認可基準を満たしていないと認可は難しい。何らかの支援を行うにしても、市の税金を使う以上みんなが納得できる理由がないといけないので、お互いに知恵を出しあえたらと思う。

・4月から小学校に通う子供がいるが、思った以上に情報が入らない。事前体験会があり学校を見に行っただが、先生によってクラス運営に差があるのに驚いた。学力を上げることも大事だが、人を育てることに力を入れてほしい。

・自宅が学校区のはずれで集団登校ではないので、通学路が心配である。高架下など車が多くて危ないと感じるので、最低限安全に通えるようにしてほしい。

→(市) 通学路の問題は学校ごとにあるとは思いますが、安全面からも防災面からも地域で取り組んでいる。保護者だけで全て解決するのは大変なので、市としても色々と対応していきたい。就学前の時期にもっと小学校の情報が欲しいということは、障害の有無に関係なく幼稚園からも聞いたりする。体験入学は最適な時期を見極めながら、しっかり取り組んでいきたいと思う。

・外国人がこれから増加していくなかで、お互いが認め合うような配慮をしてほしい。

(事務局) 話が尽きないが、予定時間も過ぎたので、この辺りで終了させていただく。

(市)(教) 本日は貴重なご意見ありがとうございました。

以 上